





道之記



宣和五年人ノ海邊ニシテ船ノ中ニ書  
下ノ海ノ中ニシテ船ノ中ニ書  
カニシテ

玄明ノ海ノ中ニシテ船ノ中ニ書  
武城知甚處 從役患辛勤 万里伴風月  
一片任白雲 折枝怪袖別 贈鼓寄倚文  
曉漏出深谷 蒙朧昏未分



不動坂と

峰峻險岸狎駭々

不動坂頭雲可攀

斜下羊腸千仞懸

疑於天界墮人間

ぬりしは河此方のかつ〜くやう〜る〜

不動坂頭雲可攀

〜と〜の〜か〜れ〜と〜く〜る〜あ〜ま〜く〜

不動坂頭雲可攀

〜と〜く〜あ〜ま〜く〜

不動坂頭雲可攀

金剛山下水流清

秋景幾多苦容情

楠木枝垂函峰聳

和田土滑墳苔積

神機妙算古今秀

義膽忠肝百歳香

朝露不晞一閨暈

草頭埋骨淚千行

千早とけき〜と〜そ〜れ〜の〜

千早とけき〜と〜そ〜れ〜の〜

十方〜と〜き〜ひ〜ひ〜と〜

原野一堆岱

曩時赤坂城

城頭懸羽葆

行伍張軍營

摸倣臥龍策

呈任龍鬚貞



扶桑生遠傑 萬古傳清名

行舟くまふくは

浪もくわしきや行舟の松乃よしの葉なる哉

大坂生まれ南の坊はくわしき人まはる哲

是成とまふく

十ら難波の浦はくわしき地 瓜郷のち

のゆ へるく

遊歩難波浦 客舟別浦邊 瞻望雲万里

故國陸三千 夢慮慕親孝 困魚念旧刻

知郷會曷歲 飯路意忘然

古里は傳やばる難波の松乃よしの葉なる哉

十ら難波の浦はくわしき地 瓜郷のち

はるくはくわしき地 瓜郷のち

はるくはくわしき地 瓜郷のち

行流樽艇洛陽遠 邂逅相逢三五天

璇歌催雨頻珠英 夜更雲霽自明然

曲江浪落涵秋峯 犇檣長牽破月圓

句々難成獲子意 已依蓬枕曉鐘傳

術



水のたのしみはくもなき  
水のたのしみはくもなき  
水のたのしみはくもなき  
水のたのしみはくもなき

舟のよきかたは有り  
舟のよきかたは有り  
舟のよきかたは有り  
舟のよきかたは有り

浪聲向曉橋邊際  
浪聲向曉橋邊際  
浪聲向曉橋邊際  
浪聲向曉橋邊際

驛馬未備東北關  
驛馬未備東北關  
驛馬未備東北關  
驛馬未備東北關

秋と世と  
秋と世と  
秋と世と  
秋と世と

稲荷の帝  
稲荷の帝  
稲荷の帝  
稲荷の帝

雲樹深々稲荷宮  
雲樹深々稲荷宮  
雲樹深々稲荷宮  
雲樹深々稲荷宮

衆人恭拜金樓外  
衆人恭拜金樓外  
衆人恭拜金樓外  
衆人恭拜金樓外

七条の耳塚と  
七条の耳塚と  
七条の耳塚と  
七条の耳塚と

清水寺前満日秋

馬蹄停處暫回頭



依約梵音白雲裏

自牽僧客上高樓

京師の石上寺乃假住ちきりきり人つるゆき  
只此とくく

古寺留錫兩三日

賓客共談心事書

市裡塵埃度莫禁

閑情清味孰山居

十八日北野又汚く

雲白洛陽北野森

松梅常老社頭深

香烟寂寞神如在

因感頻為催素吟

此方の乾社とまきくわんはげしゆりう

社と又立ぬ旅衣ききましゆりうきりぬ

大はららぬの流し

旅衣きりくと社とぬらぬら打ぬの流し又家風

おろろ義仲のころとて所乃らるまに有らと

木曾山下一將候

功業未成却冠離

可憐栗津街路露

臭名不朽古今流

兼平の塚と粟津の松のけりうと人の教をれと

ゆきと昔此人の夢または粟津の松のけりう

瀬田の湖れ北風京のくわんくわんぬと



とねりよあしてはる草いとやうきつてはれ

僅彌<sup>ニ</sup>浴陽<sup>ニ</sup>三四里

雨<sup>ニ</sup>收<sup>ル</sup>湖<sup>上</sup>浸<sup>ル</sup>清<sup>空</sup>

馬蹄音<sup>ノ</sup>閑<sup>ニ</sup>瀨<sup>多</sup>下

波<sup>面</sup>敷<sup>斜</sup>滋<sup>賀</sup>松

馬字待晴<sup>行</sup>遠<sup>者</sup>

漁<sup>舟</sup>順<sup>浪</sup>倚<sup>芦</sup>深

已<sup>疑</sup>移<sup>出</sup>獲<sup>公</sup>堤

瞻<sup>望</sup>興<sup>轉</sup>西<sup>又</sup>東

浚<sup>山</sup>とをうらまふ山<sup>の</sup>白雲<sup>の</sup>かすていよる

浚<sup>山</sup>の<sup>白</sup>雲<sup>の</sup>かすていよる

江<sup>の</sup>石<sup>の</sup>砂<sup>と</sup>かき<sup>水</sup>只<sup>の</sup>海<sup>に</sup>名<sup>地</sup>を<sup>き</sup>わ

わく<sup>有</sup>た<sup>れ</sup>た<sup>ら</sup>む<sup>れ</sup>か<sup>う</sup>

浚<sup>山</sup>の<sup>白</sup>雲<sup>の</sup>かすていよる

江<sup>の</sup>石<sup>の</sup>砂<sup>と</sup>かき<sup>水</sup>只<sup>の</sup>海<sup>に</sup>名<sup>地</sup>を<sup>き</sup>わ

あま<sup>し</sup>く<sup>す</sup>

鈴<sup>鹿</sup>山<sup>頭</sup>盤<sup>折</sup>長

攻<sup>腰</sup>遠<sup>望</sup>勢<sup>列</sup>滄

將<sup>軍</sup>行<sup>陣</sup>魔<sup>軍</sup>降

威<sup>傳</sup>万<sup>天</sup>古<sup>藩</sup>堂

其<sup>如</sup>く<sup>雲</sup>よ<sup>と</sup>も<sup>と</sup>を<sup>か</sup>ん<sup>西</sup>乃<sup>く</sup>ゆ<sup>く</sup>也<sup>く</sup>也<sup>く</sup>

さ<sup>ら</sup>な<sup>く</sup>は<sup>ら</sup>ぬ<sup>さ</sup>ら<sup>な</sup>く<sup>は</sup>ら<sup>ぬ</sup>

あ<sup>ま</sup>し<sup>く</sup>す<sup>あ</sup>ま<sup>し</sup>く<sup>す</sup>

江<sup>の</sup>石<sup>の</sup>砂<sup>と</sup>かき<sup>水</sup>只<sup>の</sup>海<sup>に</sup>名<sup>地</sup>を<sup>き</sup>わ



とあるの西島... 松林寂寞隔秋天

曠野邇來雨燕

松林寂寞隔秋天

路頭靜處無行客

馬上幾回催睡眠

日日添鞭東武迎

宵々重館故鄉懸

胸懷每被勞風景

興味漂搖意不遷

石葉師の西海寺... 石葉師の西海寺... 石葉師の西海寺...

きまらるる... 石葉師の西海寺... 石葉師の西海寺...

石の名... 石葉師の西海寺... 石葉師の西海寺...

扶杖終過黃葉村

路邊有寺隔金門

石容刻出藥師佛

知号自呼從此尊

日のみせう... 石葉師の西海寺... 石葉師の西海寺...

七里の入り... 石葉師の西海寺... 石葉師の西海寺...

えりは... 石葉師の西海寺... 石葉師の西海寺...

鴉飛引野煙

行歩自躓々

立錫望江渡

休葺倚客舩

河根波面遠

七里片帆懸

低首欲催睡

起遥着熟田

執田のえり... 石葉師の西海寺... 石葉師の西海寺...



叢雲釵 熱田神

神德化暴民

釵威降夷賊

恭敬扶桑第一鎮

信哉天下無比寶

行末くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

小爲のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

夫翁のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

千尺新岩生翠靄 性来利涉引長竿

過疑雲裏蹈蛟背 忽駭浪裏水際遙

北宮々々御沙汰水瀬々々波々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

九折路斜漸見坂 坂頭立馬思悠々

興窮烟嶋霧中小 心駭海門天際遙

近浪控涯截白鷺 扁舟數遠過浮鷗

東關遊歩性来客 無限佳境引教留

荒井の雲のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく



中や、葦葉まじりて、

前夜よりぬ

關下謝辭、行客忙

江津争渡、泛舟航

山嵐送雨、葦葉重

漂独飛過、荒塚郷

此方宿帳、けりしに、あし、いれ、おの、おの、おの、

ふん、え、え、え、

あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、

兄、兄、兄、兄、兄、兄、兄、兄、兄、兄、

今、今、今、今、今、今、今、今、今、今、

袋井の里、まじりて、

あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、

西、西、西、西、西、西、西、西、西、西、

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

佐夜中山、興自繁

雲埋老樹、茂苔痕

催漢圓位上人跡

古寺依然、看荒垣

秋、秋、秋、秋、秋、秋、秋、秋、秋、秋、

は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、



里れわの多とくよふるにれくる東川とありて  
 増つのはらわつは東川流もあらくは  
 日と言は合ふよばし東よ大井川に流るるに  
 平しの西よ水くふくふくふくふくふくふくふく入  
 ふれとじふふきしとんをわく川うしと人  
 何くわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく  
 兩陸群落接 渡伯賂錢財 眺望堪驚目  
 遊流痕作堆

又

日望西嶽過金谷 大井浪積穿岸岸  
 奴僕進前眺一炬 傭夫從後奉藍藥  
 下流洶々飛砂礫 波面縱々侵岸際  
 源遠已疑容百水 孤親又怪扭龍唇  
 此時何着祖生策 今世誰求伯氏驢  
 放目新涯眼底迫 情也氣蹙自歛歛

此の字はの山よとて

秋にれやの山よとてはの山よとてはの山よとて  
 此の字はの山よとてはの山よとてはの山よとて



これより遠くへ... 西へくま...  
田の岸かき... 美穂の春...  
さよふ... 西行...  
号... 乃... 乃...

長江行盡長江遠  
清見寺前仙女舞  
畫圖髻髻士峯嶺  
西霽一望瀾海微  
沖津河并白鷺飛  
帆影參差美穂所

南玄北来興自轉  
きみ... 西...  
ゆ... 乃...  
ゆ... 乃...  
ゆ... 乃...

富士冠八城  
嶮見射長天  
片々雲如禰  
紛々雪似纏  
駭人巧未盡  
畫近筆猶顯  
地脈跨三國  
美昭不及坐邊



薩埵山よりかへりあふりふりふりふりふり  
はむりー地をふり川津に浮きあふりふり  
はむり安んずるふりふりふりふりふり  
ふりふりふりふりふりふりふりふり  
ふりふりふりふりふりふりふりふり

首時尊像及滄灣

岳跡德唯薩埵山

宣尼草鞋到斯処

頂祈父母正安閑

浮つるふりとふりふりふりふりふりふり

ふりふりふりふりふりふりふりふり

ふり

源衛立旗浮嶋原

風光幾新谷秋村

身元暗會常隸睦

何不慎終早忘恩

曾我兄弟のふりふりふり

峻爾靈光曾我社 蓋高山下身昆鳴

一生渡裏負財多 先後九泉富名

其の多の神の明神の訪くふりふり神の心

あくの難くふりふりふりふりふりふり



乃多らこし... 人ぬま... 少ら... 法池...  
乃多らこし... 人ぬま... 少ら... 法池...

松杉遠 庶社頭古  
鈴響遠 清行客耳  
魚夸慈 躍放生池  
跌坐盤 前誦般若  
菅根山 之わ...  
千歳岳 巖三嶼神  
和風通 拂俗障塵  
雞馴德 傳教袂辰  
暫供法 施觀三輪  
菅根山 之わ...  
乃多らこし...

松光菅 根茂  
懸崖八 里程  
僕童三 四従  
長幼百 千行  
雲統埋 人跡  
不知前 路塚  
雨瀟蕩 馬蹄  
忽見水 流生  
山上有 湖海  
一望酒 客情  
數嘯雲 碧興  
日々望 官城  
菅根山 之わ...  
乃多らこし...



其のも列のつとまきつてくしとるに口はくまて

小田原くまてくまて

秋雨無晴傷客心

後流水漲不寐人

日闌未覺函郵睡

清味滿臚慰勞身

まきつたに小田原くまてくまての初くつとまきつ

西行のくまてくまての初くつとまきつ

くまてくまてくまて

今もくまてくまての初くつとまきつ

大坂虎くまてくまての初くつとまきつ

有りみえくまてくまて乃あくまてくまて

虎也虎くまて借問卿

當衢好美客男子

邦る名はおひりくまての初くつとまきつ

藤澤山頭旅館秋

風教正有可追慕

くまてくまてくまてくまて

にゆくまての初くつとまきつ

くまてくまてくまてくまて



何處ともなくぬれおぼゆる今も昔も  
りしもや我れはなほ今も  
今川もく遠家とくも  
たしひとさし

人間一世似臨淵

君子言無扱盜泉

榮望多維安買禍

貧生頻恐入金川

今も川に流るるも  
一はくも川に流るるも

刑罰高張獨鐸森

勸善懲惡始於仁

明君宣瑞布天下

凡下不知自業

河川もろくもさくも  
河川もろくもさくも

彼御山のお  
彼御山のお

送吾風月幾幾郵

銅錫引來至武列

高野寺前知已候

會談多是故鄉秋

庚寅の  
庚寅の

新祝正春東武客

客情和雨依家扉

孝順後秋知莫道

黃鳥笑吾吟翠微



この世のことはさういふもの  
のことはさういふもの  
さういふものさういふもの  
さういふものさういふもの  
さういふものさういふもの



